

サロベツ

再生目標

- 高層湿原…………… 国立公園指定時（昭和 49 年）の植生やその広がり状況をイメージし、当時の状況を残す箇所を標準とし、これを目標とする
- ペンケ沼…………… 現況を維持すること（これ以上埋塞が進まない状態）
- 泥炭採取跡地…………… 開水面の閉塞を進め湿原植生の再生・創出を図ること
- 砂丘林湖沼群…………… 生態系を保持するために水位低下を抑制すること

DATA
 エリア：利尻礼文サロベツ国立公園
 所在地：北海道天塩郡豊富町、幌延町
 着手：H14

上サロベツ自然再生協議会

概要：国立公園であるサロベツ湿原と農地が隣接する北海道豊富町において、農業と共存した湿原の再生を検討。
 設立日：H17.1.19
 構成員数：54
 全体構想作成日：H18.2.2
 実施計画作成日：
 ● H18.7.13（緩衝帯・沈砂池／北海道開発局（農業）ほか）
 (H21.3 現在)



オオヒシクイ



ツルコケモモ



コモチカナヘビ



ショウジョウバカマ

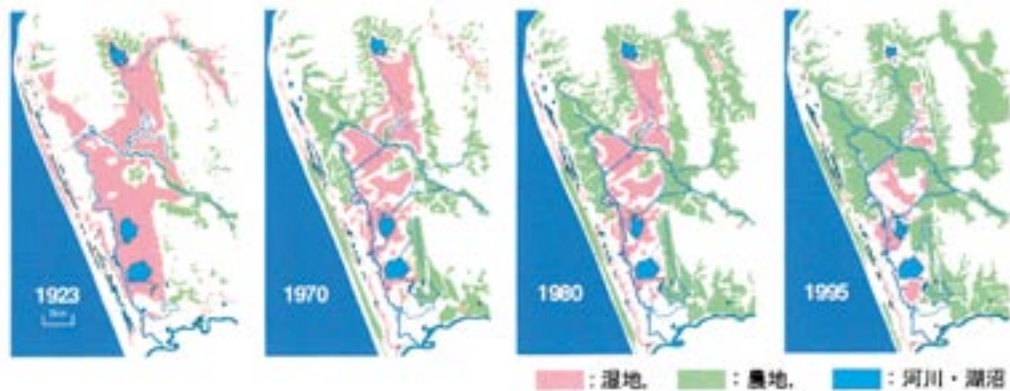
サロベツ湿原は、その起源が日本海に面した沿岸部の砂丘帯と宗谷丘陵に囲まれた潟湖（古サロベツ湖）にあり、これに流入する古天塩川とその支流の相互作用を受けながら、泥炭が堆積して形成されており、低平地における国内最大の高層湿原となっています。

湿原では、ミズゴケ、ツルコケモモ等が生育する高層湿原が広がり、サハリンと北海道の動物分布境界を象徴するとされるコモチカナヘビが確認されています。また、水鳥の渡りの中継地として利用され、近年はタンチョウの繁殖が確認されるなど、特色のある生態系・自然環

境を形成しています。しかし、周辺の土地利用の変化に伴い、湿原において地下水位の低下や乾燥化、地盤沈下が発生し、これにより高層湿原植生が減少しササやヨシ等が侵入するなどの現象が生じています。

一方、泥炭地からなる周辺農用地においては、湛水や過湿被害等により生産性が著しく低下しています。このため、湿原の消失と劣化、農業との両立などの課題解決に向けた自然再生の取り組みを進めています。

サロベツ原野の開発と農地の拡大



関連ホームページ

サロベツ自然再生事業：http://sarobetsu.env.gr.jp/
 上サロベツ自然再生協議会：http://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/web/PD_Cont.nsf/0/29CF809869F4D4D249256F88002F608D?OpenDocument

自然再生の手法

- ▶ 地下水位の低下抑制→①
- ▶ 泥炭採取地の復元→②
- ▶ 農地と湿原の緩衝帯等の整備→③

農地と湿地の間には、主に地下水を要因として、相互に影響し合う強い関係がみられ、農地においては適度の排水を確保しつつ土砂流出を防ぐことが求められています。一方で、湿原においては地下水位の上昇とその安定化を図ることによって乾燥化を防ぐことが求められています。このため、既設の水抜き水路において湿原の地下水位低下を抑制するための堰を設置し、湿原植生を再生する実証試験を行っています。

また、農地と湿原の境界付近では、北海道開発局を中心に緩衝帯の整備が進められています。

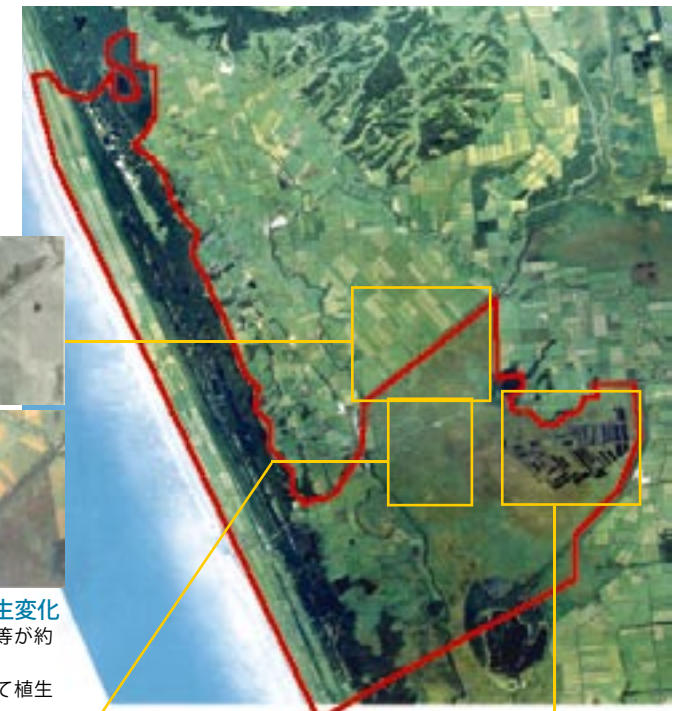
ササ前線の進行
 23年間で20～50m程度のササ前線が進行



対象地域
 調査地域

1964年

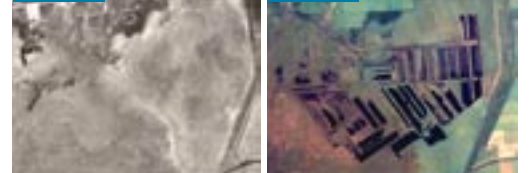
2000年



乾燥化による植生変化
 ・放水路沿いにヨシ等が約50ha侵入
 ・高層湿原が乾燥して植生が変化

1970年

2000年



泥炭採取による湿原の減少 150ha が採取により減少

① 水抜き水路の堰上げ等による地下水位の低下抑制

既設の水抜き水路に堰を設置し、排水を抑制することで湿原の乾燥化を防ぎます。また、堰の設置後においては、地下水位と植生の変化について継続的に調査しています。



落合沼流出部堰上げ直後の状況（堰の延長は10.5m、水路底から約1.1m堰上げ）



堰上げ2日後の状況（融雪等の影響で相当量の越流が生じている）

② 泥炭採取跡地における湿原植生回復

初期の泥炭採取跡地では、経年変化に伴いミズゴケが発達する等、湿原植生の回復がみられています。しかし、採取跡地の多くは大きな開水面や植生回復の進まない部分が残っていることから、湿原植生の再生・創出の具体的な手法を検討しています。



浮島に生育するナガバノモウセンゴケ



泥炭採取跡地

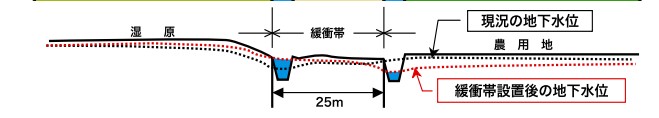
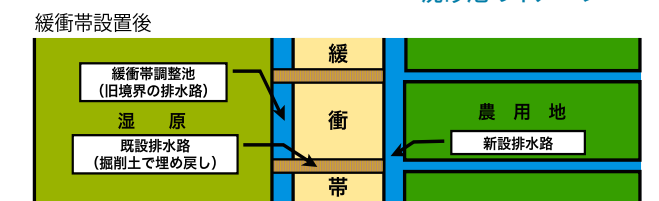


泥炭採取跡地の植生の様子

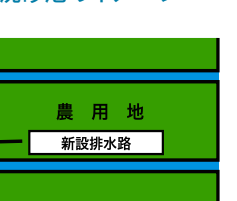
③ 農地と湿原の緩衝帯等の整備

農用地と湿原が直接隣接する箇所の内、湿原の地下水位に影響を及ぼしていると推察される農用地側に緩衝帯を設定し、湿原の乾燥化を抑制します。また、整備する農業用排水路に設置される沈砂池を適正に維持管理することで、農用地から河川に流出する土砂を軽減します。

緩衝帯のイメージ



沈砂池のイメージ



北海道開発局、豊富町、サロベツ農事連絡会議による事業